

長期戦略:テーマ 「対面的なコミュニケーションの促進」

提出日 2022年 8月 24日

担当部署

Ⅱ.実施計画帳票

長期戦略テーマの責任者 (統轄部署)	林教務機構長 (教務機構)	実施計画の 担当部署	教務機構
-----------------------	------------------	---------------	------

1. 実施計画

実施計画(タイトル)	取組開始	達成状況 確認年度	学部・研究科での 取組み有/無	帳票
1-(11)-② 学部におけるハンズオン・ラーニングプログラムの推進	2020年度	2022年度	必要⇒【選択型】(学部・研究科が任意で取組みを選択)	要
内容				
<p>SGU ダブルチャレンジ制度では、アウェイチャレンジ(①インターナショナルプログラム、②ハンズオン・ラーニングプログラム、③副専攻プログラム)の単位を修得して卒業する学生数(実数)を指標としており、SGU最終年度の2023年度においては5700名を目標数値としている。その5700名のうち約3000名が②ハンズオン・ラーニングプログラムの単位を修得することがもう一つの目標値である。目標である3000人を達成するためには、ハンズオン・ラーニングセンター開講科目の単位修得者数を増加させることはもちろんではあるが、学部におけるハンズオン・ラーニングを推進し、学部開講ハンズオン・ラーニングプログラム単位修得者数の増加を図らなければならない。</p>				
進捗状況を測る指標	指標名	定義・算式		
指標1	学部独自ハンズオン・ラーニングプログラム単位修得者	当該年度の卒業生のうち、学部独自ハンズオン・ラーニングプログラムの単位を修得して卒業した学生数(実数) ※学部独自ハンズオン科目とHoLC開講科目を修得している場合は、学部独自ハンズオン科目をカウントする。		
指標2				
指標3				

目標1<指標1>学部独自ハンズオン・ラーニングプログラム単位修得者

	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
目標	1200人	1500人	2000人	2000人		
実績	1801人	1868人				

目標2<指標2>

	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
目標						
実績						

目標3<指標3>

	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
目標						
実績						

2. ロードマップ

		2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度
学部におけるハンズオン・ラーニングの推進	策定段階	ハンズオン・ラーニングプログラムの開講状況調査	ハンズオン・ラーニングプログラムの開講援助	ハンズオン・ラーニングプログラムの開講援助	ハンズオン・ラーニングプログラムの開講援助	ハンズオン・ラーニングプログラムの開講援助
	2023 年 3 月末段階	57 科目	54 科目	64 科目		
		2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度	-
	策定段階					
	2023 年 3 月末段階					
		2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度
	策定段階					
	2023 年 3 月末段階					
		2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度	-
	策定段階					
	2023 年 3 月末段階					

3. 費用計画・人員計画

【費用・人員を必要とする理由】							
非公開							
経費 単位:万円	2020年度 承認	2021年度 承認	2022年度 承認	2023年度 承認	2024年度	2025年度	左記以降
非公開							
人員・人件費 単位:万円	2020年度 承認	2021年度 承認	2022年度 承認	2023年度 承認	2024年度	2025年度	左記以降
非公開							

4. 進捗状況・得られた成果

2019 年度	ダブルチャレンジを推奨しているのは 2018 年度入学生からであり、またハンズオン科目は 1, 2 年生の履修者が大半を占めているため、今後成果が表れてくると思われる。ハンズオン科目の延べ人数の単位修得者数は年々増加している。			
	延べ数	2018 年度	2019 年度	対前年度
	学部ハンズオン	1,186 人	2,062 人	+876 人
	HoLC	960 人	1,181 人	+221 人
	合計	2,146 人	3,243 人	+1,097 人
2020 年度	2020 年度は、新型コロナウイルスの影響により、学外実習を伴う多くの科目が不開講となり、前年度に比べ、単位修得者数は減少した。			
	延べ数	2019 年度	2020 年度	対前年度
	学部ハンズオン	2,062 人	1,801 人	▲261 人
	HoLC	1,181 人	820 人	▲361 人
	合計	3,243 人	2,621 人	▲622 人
2021 年度	2021 年度は、新型コロナウイルスの影響により、学外実習を伴う多くの科目が不開講となったものの、前年度に比べ単位修得者数は増加した。			
	延べ数	2020 年度	2021 年度	対前年度
	学部ハンズオン	1,801 人	1,868 人	+67 人
	HoLC	820 人	813 人	▲7 人
	合計	2,621 人	2,681 人	+60 人
2022 年度				
2023 年度				
2024 年度				

5. 今後の課題及び方向性

2019 年度	2019 年度までは事務レベルで各部へのハンズオン・ラーニングプログラムの説明および科目開発依頼を実施してきたが、これを教員レベルまで広げて実施し、履修者増に繋げていきたい。
2020 年度	毎年各学部にハンズオン科目の開設依頼を行っているが、出尽くした感は否めない。また、ハンズオン科目を履修した学生は他のダブルチャレンジ科目も履修しているケースが多いため、卒業時にどれだけハンズオンでカウントができるかは現時点では何とも言えない（ハンズオンのダブルチャレンジカウントにおける優先順位は最後である）。今後はハンズオンだけでなく、ダブルチャレンジの推奨を更に学生に周知する手段を講じる必要がある。
2021 年度	毎年各学部にハンズオン科目の開設依頼を行っているが、出尽くした感は否めない。また、ハンズオン科目を履修した学生は他のダブルチャレンジ科目も履修しているケースが多いため、卒業時にどれだけハンズオンでカウントができるかは現時点では何とも言えない（ハンズオンのダブルチャレンジカウントにおける優先順位は最後である）。今後はハンズオンだけでなく、ダブルチャレンジの推奨を更に学生に周知する手段を講じる必要がある。

2022 年度	毎年各学部にハンズオン科目の開設依頼を行っているが、これ以上の大幅増は難しいと思われる。センターとしては学部のニーズに応えながら科目開発援助を行っていきたい。
2023 年度	
2024 年度	

6. 学院総合企画会議の基本方針

2018 年度	—
2019 年度	—
2020 年度	—
2021 年度	—
2022 年度	—
2023 年度	

7. Total Review の結果

【フェーズ I (2019~2021)】

レビュー結果	可否	備考(継続:「フェーズⅡに向けた課題」廃止:その理由と今後の方向性)
・学部開講科目の内、ハンズオン科目定義に沿った内容の既存開講科目のハンズオン認定によって、一定数の科目及び履修者数の実績を挙げているが、専任教員にとって開講負担も大きいことから新規開講は伸び悩んでいる。	継続 ・ 廃止	・ハンズオン・PBL 型教育の学部での質を伴った拡大(学部専任教員による PBL 型授業設計と最前線の外部人材の活用) ※学部での拡大に合わせて受講しやすい柔軟な時間割を検討

【フェーズⅡ (2022~2024)】

レビュー結果	可否	備考(継続:「フェーズⅡに向けた課題」廃止:その理由と今後の方向性)
	継続 ・ 廃止	